

平成 28 年度 名古屋市立高校生の海外派遣事業

ロサンゼルス派遣団 研修報告書

訪問先：アメリカ合衆国

期 間：平成 28 年 8 月 16 日（火）～8 月 25 日（木）



Nagoya City Students Study Tour
Los Angeles 2016

目 次

海外派遣団員名簿	・・・	1
現地研修日程	・・・	1
現地研修		
①全米日系人博物館	【 北 】田中 杏奈	・・・ 2
②姉妹都市ロサンゼルスについて	【 北 】長谷川 友香	・・・ 3
③JETROロサンゼルス事務所	【名古屋商業】三輪 愛美	・・・ 4
④多文化共生と異文化理解	【名古屋商業】鍋島 朱里	・・・ 5
学校訪問		
①アメリカの学校と日本の学校	【 北 】田中 杏奈	・・・ 6
②日本と違うアメリカの学校	【 北 】長谷川 友香	・・・ 7
③学校訪問	【名古屋商業】三輪 愛美	・・・ 8
④アメリカの教育観	【名古屋商業】鍋島 朱里	・・・ 9
海外派遣に参加して		
①貴重な体験	【 北 】田中 杏奈	・・・ 10
②積極性の大切さ	【 北 】長谷川 友香	・・・ 11
③商業高校生として成長したこと	【名古屋商業】三輪 愛美	・・・ 12
④研修に参加して	【名古屋商業】鍋島 朱里	・・・ 13
英文レポート		
①Everything Was New	【 北 】田中 杏奈	・・・ 14
②My Experience	【 北 】長谷川 友香	・・・ 14
③Becoming a Member of Society	【名古屋商業】三輪 愛美	・・・ 15
④The Most Impressive Thing	【名古屋商業】鍋島 朱里	・・・ 15
あとがき（総務 松原 好秀）	・・・	16

海外派遣団員名簿

学 校 名	氏 名	学 科 等	N a m e	学年
名古屋商業高等学校	松原 好秀	教諭 総務	Matsubara Yoshihide	
北高等学校	田中 杏奈	普通科	Tanaka Anna	2 年
北高等学校	長谷川 友香	普通科	Hasegawa Yuka	2 年
名古屋商業高等学校	三輪 愛美	商業科	Miwa Manami	3 年
名古屋商業高等学校	鍋島 朱里	国際経済科	Nabeshima Akari	3 年

現地研修日程

日	月日	曜日	主な研修内容
1	8 月 16 日	火	14:50 発 中部国際空港 JL3084 便→成田(16:00 着)→JL62 便(17:25 発) 11:40 着 ロサンゼルス到着→ロングビーチ港見学→専用車にてホテルへ
2	8 月 17 日	水	カリフォルニア・サイエンス・センター視察 JETROロサンゼルス事務所訪問 ダウンタウンエリア視察
3	8 月 18 日	木	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)訪問 芸術鑑賞(ゲティ・センター、ロサンゼルス郡立美術館)
4	8 月 19 日	金	ロサンゼルス市役所表敬訪問 全米日系人博物館、グランド・セントラル・マーケット視察
5	8 月 20 日	土	グリフィスパーク視察
6	8 月 21 日	日	ハリウッドエリア視察
7	8 月 22 日	月	オーガスタス・F・ホーキンス高校訪問 サンタモニカエリア視察
8	8 月 23 日	火	南カリフォルニア大学(USC)訪問 ダヴィンチ高校訪問
9	8 月 24 日	水	10:45 専用車にてロサンゼルス空港へ移動 13:45 発 ロサンゼルス空港 JL61 便→成田
10	8 月 25 日	木	成田(16:55 着)→JL3087 便(18:30 発) 中部国際空港へ(19:40 着)

全米日系人博物館

名古屋市立北高等学校 田中 杏奈

1. 初めて触れる歴史

現地研修4日目、私たちはリトルトーキョーにある全米日系人博物館を訪れました。入口の手前にはルービックキューブに似たモニュメントが置いてありました。各側面には、人種に関係なく人の顔のパーツの写真があり、側面をそろえると一つの顔になります。それは、人種差別のない世界を表しているようでした。

ガイドの馬上さんに案内をしていただき、たくさんのお話を伺いました。第二次世界大戦時、多くの日系人が強制収容所に入れられていたというお話を聞き、とても驚きました。そして、その当時使用されていたバラックの一部を実際に見て、そこでの過酷な暮らしを垣間見ることができました。



多くのバラックを早急に作らなければいけなかったのも、切った木材を乾かすこともなく、すぐに使用してバラックを完成させました。木を完全に乾かしてから作るという通常の行程で建設しなかったのも、完成後にはいたるところに隙間ができてしまい、冬にはマイナス30度の極寒の中、非常に寒い思いをされていたそうです。

また、持ち物も制限されていました。バットや包丁のように凶器になるものはもちろんのこと、情報交換ができてしまうラジオやトランシーバーも持ち込み禁止でした。そして、収容所は有刺鉄線で囲まれ見張りもいることと、砂漠のど真ん中に建てられていたために、逃げようとした人はいなかったそうです。収容所に孤児院があったことにも驚きました。いつ帰ることができるのかも分からない状況で過ごしていたことの壮絶さは想像以上であったと思います。

そして、有名な零戦についてのお話も聞くことができました。アメリカと日本の戦い方の違いに気づくことができました。零戦は、アメリカの戦闘機に比べ日本の方が9倍近く高い性能を持っていたにもかかわらず負けてしまいました。その理由は、アメリカがパイロットの命を優先していたからです。日本は戦闘機の性能を優先し、出来る限り機体を軽くしたため、強度が格段に低くなり、逆にアメリカは機体に鉄の板を入れ強度を強くすることで、パイロットを守ったのだそうです。当時の価値観の違いを知ることができ、アメリカと日本に対しての印象が大きく変わりました。

2. 日系人

今まで日系人についてきちんと理解していなかったことをとても感じました。1880年代、ある日本人たちが農業のために自ら志願してハワイへ行き、アメリカの魅力に惹かれてそのままハワイへ定住しました。ここから2世・3世と、日系人の歴史が続いていくのです。そして、当時の日系人を対象とした差別は、日系人である彼らの取り組みのおかげでなくなり、今回私たちがこうしてロサンゼルスを訪れることができました。

3. これからすべきこと

最後に馬上さんから「近代史を学ぶことで自分の国を知ることができる」というお話があり、とても感銘を受けました。私は歴史についてあまり興味を持つことがなかったのですが、今回たくさんの歴史を知ることができ、もっと日本の歴史について知りたいと思いました。

今回、差別についてお話していただいたことで、ロサンゼルス・メモリアル・コロシウムで見た“人種で特定しないということを意味している首のない銅像”や、ホームレスの方々の多くが黒人の方であったことを思い出しました。現在でも人種差別が残っていること、差別をなくす取り組みが続いていることを改めて感じました。そして、今もなお続いている人種差別をなくすために、私たちは何をしなければならないのかと強く思いました。私は将来差別をなくす取り組みに参加し、差別に苦しんでいる人々の力になりたいです。

姉妹都市ロサンゼルスについて

名古屋市立北高等学校 長谷川 友香

1. 姉妹都市の歴史

ロサンゼルスと名古屋は古くからの姉妹都市であり、お互いにとって初めて結んだ姉妹都市です。1959年の春に姉妹都市を提携して、今年で57年目になりました。また、1969年から東山動植物園とロサンゼルス動物園の間で動物の交換が行われています。

2. 姉妹都市の交流

ロサンゼルスと名古屋は、姉妹都市としてお互いに記念品を贈るなどたくさんの交流を行っています。姉妹都市提携30周年の際に



は金の神輿を、35周年の記念には大きな木製の時計を贈りました。そして、ロサンゼルスからは、55周年を記念してアメリカの国鳥であるハクトウワシが東山動植物園に贈られています。

また、リトルトーキョーで行われる“二世週祭”は、大恐慌の最中の1934年から始まり、第二次世界大戦時の6年間を除いて毎年開催されています。現在では、日本の文化遺産を称える全米最大の日系社会イベントとして、アメリカで最も歴史の長い少数民族の祭りとして知られています。この二世週祭で選ばれた“二世クイーン”の方々が、毎年10月に開催される名古屋まつりのパレードに参加しています。

他にも、ロサンゼルス交歓高校生プログラムでは、相互理解と友好親善を促進することを目的として、ホームステイや高校への相互訪問、交流会への参加などを行っています。また、両国の中学生がバスケットボールを通じて交流するプログラムが用意されています。

3. 感想

私たちは、ロサンゼルス市庁舎や、リトルトーキョーなどを見学し、名古屋とロサンゼルス姉妹都市の絆を強く感じることができました。特に市庁舎に飾られていた神輿や時計が大切に保管されていたことがとても嬉しかったです。リトルトーキョーでは、回転寿司レストランやお弁当屋さんなどの日本のお店がたくさん並んでいました。そして幸運なことに、これから名古屋を訪れる

二世クイーンの方々に会うことができました。ロサンゼルスの中なのにもまるで日本のような空間が広がっていました。そして、ロサンゼルスに暮らす人々は、日本人である私たちに話しかけてくれたり、挨拶をしてくれたりするなど、私たちを受け入れてくれてとても温かく嬉しく思いました。

市庁舎の近くには、ロサンゼルスと姉妹都市の関係にある都市の向きと距離が示された姉妹都市標識と呼ばれるものが立っていました。そこには、名古屋の方角に向かって「NAGOYA 5633 miles」と書かれていました。メートル表記に直すと、およそ9000キロメートルもあるのですが、まるで名古屋がすぐそこにあると言っているようで、とても親近感が湧き嬉しく思いました。

また、名古屋とロサンゼルスが似ている点の一つとして、大きな港があるということです。ロングビーチを訪れた際には、大きなコンテナターミナルを見学し、名古屋と同じ港湾都市であることを実感しました。さらに開発が進められており、重要な産業として位置付けられていることを学びました。

毎年ロサンゼルスと名古屋は交流しています。今回このように私たちが派遣されることができたのも、今まで姉妹都市として、友好関係を築いてきたからだだと思います。私は、今回の派遣を通してロサンゼルスが今まで以上に好きになりました。ロサンゼルスと名古屋は沢山の共通点があり、また温かさはまるで第二の故郷です。これから私は日本とロサンゼルス架け橋となれるよう頑張りたいと思います。そして、名古屋とロサンゼルス姉妹都市の交流がいつまでも続くことを願っています。



JETROロサンゼルス事務所

名古屋市立名古屋商業高等学校 三輪 愛美

1. JETROロサンゼルス事務所とは

JETROロサンゼルス事務所は、アメリカでビジネスを行う日本企業に対してアドバイスをするなどの支援を行っています。例えば、日本食のレストランチェーン経営者の方には、日本の食事の文化を伝えつつも、アメリカに暮らす人々の生活に合わせて作り替える必要があるとアドバイスをするそうです。日本で出来なくてもアメリカで出来ることや、逆にアメリカでは出来ないことを踏まえて考えることが重要だそうです。日本のやり方を無理やり持ち込むという考え方ではなく、アメリカに合うように作り変えるということが大切だと学びました。また、アメリカの中でも、どの場所に店舗を置くのかも考えなければいけません。お店をそれぞれの地域の雰囲気に合わせて作る必要もあるそうです。日本企業がアメリカで活躍するためには、人々の生活の違いを知り、アメリカに合わせて作り変えながらビジネスを行うことが必要だと学びました。

2. 産業の似ている点

ロサンゼルススのロングビーチ港は太平洋岸最大の貨物取扱量があり、大きな港があるという点で名古屋と似ています。ロングビーチ港には多くのコンテナやクレーンがあり、港湾都市として物流や貿易に大きな役割を果たしていることを学びました。



3. 日本のものをビジネスに

アメリカの人々は、日本といえば寿司やアニメというイメージを持つそうです。寿司は日本食や中華、フレンチなどと同じように1つのカテゴリができるほど有名になっていると知って驚きました。日本食は多く取り入れ

られていますが、材料は現地で調達されており、日本で食べる日本食とはまた別の日本食を楽しむことができます。

日本のアニメを取り入れる際にも、アメリカの人々の生活に合わせて一部を作り変えて放送しているそうです。例えば、ドラえもんが食べているどら焼きはアメリカの人々にとってはあまり馴染みがないので、ピザに変えて放送されているそうです。私はその話を伺って、アニメ自体のイメージが変わってしまうと思い、とても驚きました。そして、アニメのキャラクターが食べている食べ物などは宣伝効果があり、それがビジネスに利用されていることを知り、アニメに対する意識が変わりました。今までは、娯楽のためのものというイメージしかありませんでしたが、ビジネスにも繋がる重要な役目を果たすものだと思います。ビジネスを成功させるためにはトレンドを利用してビジネスに生かすことが重要だと学びました。



4. ビジネスマンになるために

海外でビジネスをするためには、現地の人々の生活の違いや常識を理解することが重要だと思います。また、トレンドを利用してビジネスに生かすためには、周りのことをよく知る必要があると学びました。今後、ビジネスマンになることを意識するために、身の回りから得た情報に私たちがどう影響されているのかを考え直したり、学校で学んだことをいかに活かすことができるのかを考えたりすることで、当たり前だと思っている自分の行動や生活を見直しながら、学んだことを活かしていきたいと思います。

多文化共生と異文化理解

名古屋市立名古屋商業高等学校 鍋島 朱里

1. 様々な違い

アメリカには白人、黒人、アジア系、ヒスパニック系、ネイティブアメリカンなど様々な人種の人が暮らしています。「人種のサラダボール」と言われているほどです。これは、アメリカの特徴であると同時に、日本にはない点です。

様々な人種の人が暮らしているということは、そこには様々な文化、考え方があるということです。文化というと、はっきりと目に見える音楽、絵画、ファッション、料理、建築などがありますが、日常にも目には見えない文化が溢れています。交通ルール、礼儀、人付き合いの仕方、価値観などです。このような日常的な文化は、自分にとっては当たり前のことなので意識することはあまりないですが、ロサンゼルスへ行ったことにより、私にとっての当たり前が必ずしも相手にとっての当たり前ではないと気づくことができました。

ロサンゼルスへ行く前は、「アメリカの町は汚く、人々は不親切だ」というイメージがありましたが、実際は違いました。地下鉄や公共トイレは清掃が行き届いており、ゴミも落ちておらずきれいでした。地下鉄では、お年寄りや小さな子供連れの人に席を譲っている場面を何度か見かけました。このように、現地へ行かなければ分からなかったことを知ることができました。インターネットや本を見て情報を得るだけではなく、実際に現地へ足を運ぶことが大切だと思いました。

2. リトルトーキョー

ロサンゼルスにはリトルトーキョー、コリアタウン、リトルエチオピア、チャイナタウンといったリトルシティが数多く存在します。

リトルトーキョーは昔の日本のような街並みで、提灯などが吊るされており風情がありました。日本でも見覚えのあるお店や商品が沢山ありました。日本のスナック菓子や化粧品、医薬品、キャラクターグッズなどが売られていました。中には日本食のみを取り扱っているスーパーもあり、客のほとんどが日本人でした。日本でも馴染みのある「くら寿司」も進出していたことにとっても驚きました。現地の人が寿司やラーメンを食べている姿を見て、アメリカでも日本食は親しまれていることが分かって嬉しかったです。

3. リトルエチオピア

リトルエチオピアでは、エチオピア料理を食べました。主食として食べられているインジェラは、薄く焼いたクレープ生地のようなもので、少し酸味があります。エチオピアの食事は、スプーンやフォークを使わずに手で食べるので、私たちも手で食べることにしました。インジェラをちぎり、焼き魚や肉料理、シチューなどにつけて食べました。おかずには香辛料が使われているものが多くありました。私は初めてエチオピア料理を食べましたが、日本では食べたことのない味ばかりでした。特に、インジェラの独特な酸味が印象的でした。



4. まとめ

ロサンゼルスで、多文化共生や異文化理解という言葉の本当の意味を学ぶことができた気がします。近年、多文化共生や異文化理解という言葉が頻繁に耳にします。日本にも外国人は暮らしていますが、接する機会は少なく、文化や考え方の違いを感じることはあまりありません。そんな日本に暮らしている私にとっては現実味の無い言葉でしたが、様々な人種の人が暮らしているロサンゼルスでの研修を通して、文化や考え方の違いが存在するということが肌で感じることができました。文化や考え方の違いに遭遇した時、見て見ぬふりをしたり、自分の意見ばかりを主張するのではなく、お互いを認め合い、受け入れることの大切さを学びました。

今後は積極的に海外へ行きたいと思っています。そして海外で生活をしていく中でそのようなことに遭遇した時は、ロサンゼルスで学んだことを活かしたいです。それは海外だけでなく日本でも同様です。多くの外国人が暮らしているということは、そこに様々な文化が存在しているということです。日本で生活していく上でも、現地へ足を運んだからこそ学ぶことができた多文化共生や異文化理解の大切さを、これからも深く考え続けていきたいと思っています。

アメリカの学校と日本の学校

名古屋市立北高等学校 田中 杏奈

1. アメリカの大学で感じたこと

私たちが初めに目にした学校は、ホテルの目の前にある南カリフォルニア大学（USC）でした。そして、大学内の学生食堂で夕食を2回とりました。多くの学生が利用していたので、アメリカの大学生生活の様子、アメリカに暮らす人々の振る舞いを見ることができました。また、学生の多くは大学名がプリントされた赤いシャツを着ていました。スポーツ観戦のために学生がそのような服を着て長蛇の列をつくるという、見たことのない風景を目にしました。

後日、改めて南カリフォルニア大学を訪問し、学内を見学しました。そして、大学で初めて建てられた建造物である alumni house へ入ることができました。当時、学生は53人しかおらず、ここでは10人の先生が1階で授業を行い、学生は2階に住むことができたそうです。ここには中華調の絵が描かれた当時の壁紙などが保存されており、どのようなデザインが当時の人々に好まれていたのかを知ることができました。



また、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）にも訪れました。自然が多くのおびりできる素敵な空間という印象でした。ここでは、現地の学生にキャンパス内を案内していただきました。どの学科にもそれぞれ図書館があること、そして学科ごとに置かれている本が決まっていることを教えてもらいました。音楽の学科には楽譜や音楽にまつわる本がたくさん置いてありました。これらを通し、この大学の規模の大きさに驚かされました。また、留学に対して様々なカリキュラムがあることも教えていただきました。いつか留学する機会があればぜひこの大学へ行きたいです。

2. 日本との大きな違い

大学の他に、私たちは2校の高校を訪れました。アメリカの高校生活がどのような感じなのか想像することができなかったのも、楽しみと緊張でいっぱいでした。

公立高校のオーガスタス・F・ホーキンス高校では、バディの生徒と一緒に授業へ参加しました。日本のように個々に席が決まっているわけではなく、生徒たちが先生のいる教室へ行くため、毎放課を移動時間に使っていたことが印象的でした。授業で取り組まれていたロールプレイングは、誰もが真剣に、そして積極的に参加していました。誰にも頼ることのできない状況の中、相手の言葉にしっかりと耳を傾け、必死に思いを伝えようとしていました。その中で自分の英語力の乏しさに悔しい思いをしました。



私が一番驚いたことは、スペイン語の授業でした。先生はスペイン語で授業を行い、生徒もスペイン語で質問をしていました。バディの子に「あなたはスペイン語が話せるの？」と聞くと、「話せるよ」と言われ、私は驚きました。生徒の中にはアメリカに移住してきたため、スペイン語の方が得意な生徒もいるようです。

チャータースクールであるダヴィンチ高校では、生徒の方々に校内を案内してもらいました。こちらの学校でもほとんどの生徒が積極的に授業に参加し、互いにアイデアを出し合いながら理解を深めていました。

どちらの学校でも、事前研修で一生懸命練習してきた、日本と名古屋について知ってもらうためのプレゼンテーションを行いました。質問にも答えることができ、名古屋や私たちの学校について興味をもっていただけたようでとてもよかったです。

1. 研修の目標

私は、学校訪問でできるだけ多くの人と話をしたいと思っていました。また、日本を紹介するプレゼンテーションなどを通して、日本のことや名古屋のこと、私たちの学校生活について興味を持ってもらいたいと思いました。

2. 事前研修の準備

私は学校訪問の事前準備として、AETの先生と実際の学校生活を想定した会話練習や、自己紹介の練習などを行いました。他にも、ロサンゼルスの学校に行くにあたってのルールやマナーなどの注意点などを学びました。

3. 学校での体験

私たちは大学2校と高校2校の計4校を訪問しました。ホーキンス高校では、現地の生徒と一緒に授業に参加させてもらいました。バディの生徒と一緒に教室へ入るとたくさんの生徒が話しかけてくれました。どの生徒もととても親切で嬉しかったです。

訪問した学校では、日本と違いほとんどの授業でプロジェクタやスクリーンを使用していました。そうすることで、授業をスムーズに行うことができます。また、クラスの座席が向かい合っていました。そうすることで気軽に意見を交換できるので、授業がととても盛り上がっていました。他にも、自分自身をよりよく知るための授業や、ロールプレイングをする授業、屋外で数学の授業を受けたことがとても印象的でした。

昼休みには、カフェテリアで現地の生徒と一緒に昼食をとりました。カフェテリアには、リンゴが丸ごと出されていたり、ニンジンを生で食べていたり、日本では見られない光景が広がっていました。

授業後には、日本や名古屋、私たちの学校生活を紹介するプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションを行った後、とてもたくさんの質問を受けました。中でも、靴を履きかえるという文化やお風呂に入ってリックスをするという日本独自の習慣に驚かれました。



4. 学校訪問を終えて

私は事前の語学研修で学んだ挨拶や自己紹介のやり方を実践することができました。自己紹介の際に握手をする習慣には、慣れるのには時間がかかりましたが、たくさんの人に自分から話しかけることができました。ほかにも、疑問に思ったことやわからないことは、先生や周りの生徒に尋ねて解決することができました。

今回ロサンゼルスを見学して、生徒が昼食後のごみを片付けていなかったことや、生徒が学校の掃除をしないことに驚きました。日本の学校の掃除の文化がアメリカでは当たり前でないことに気付いたと同時に、日本の掃除の文化の素晴らしさに気づくことができました。他にも、生徒がととても積極的に授業に参加していたことに驚きました。わからないところは挙手をしてすぐに先生に聞く姿勢は、日本ではあまりないと感じたので、見習いたいと思いました。他にも、わからないことを生徒同士で協力し、話し合っ解決へ導く姿がととても印象的でした。私も彼らのように何事も積極的に取り組める人になりたいです。



学校訪問

名古屋市立名古屋商業高等学校 三輪 愛美

1. 大学訪問

カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）を見学した時、いろいろな国の学生がいて、国際的に有名な学校であることと同時に、アメリカが多民族国家であることを実感しました。学生の多くは、大学名がプリントされたTシャツを身に付けていたので、自分の学校をとっても誇りに思っているのだと思いました。

南カリフォルニア大学（USC）では、創立時に建てられた校舎を訪れ、学校の成り立ちについてお話を伺いました。最初は音楽の学校で、学生は53人しかおらず、とても小さな校舎から大きな大学へ発展したことに驚きました。

2. オーガスタス・F・ホーキンス高校

ホーキンス高校では、現地の世話役の生徒とペアを組み、校内を案内してもらいながら、実際に授業へ参加させていただきました。日本の学校では、先生が黒板に書いたことを生徒が写す授業が多いですが、アメリカではそのような授業がほとんどないことに驚きました。ある授業では、先生はプロジェクターを使って、ノートの取り方を指定するだけで、生徒たちは自ら考えながらノートをとっていました。授業中は生徒たちで話し合いをしながら協力して授業を進めることが多く、とても賑やかでした。授業中に寝ている生徒が全くいなかったことや、自分から発言をする生徒が多くいたという点は、日本の高校生の多くが学ぶべきことだと思います。



授業後には、日本・名古屋・学校を紹介するプレゼンテーションを行いました。そこでは多くの質問が出されました。日本の文化である靴

を脱ぐことに対して、学校でもスリッパに履き替えることがアメリカとの大きな違いだと言っていました。また、アメリカの学校では制服がなく、個人の自由を尊重する個人主義的で、日本では制服を着て集団行動ができる人を教育しており、集団主義的だと思いました。

3. ダヴィンチ高校

ダヴィンチ高校では、生徒に校内を案内してもらいました。見学したサイエンスの授業では、病原体が広がった理由をグループで追及して、発表をするための準備をしていました。日本では教科書に書いてあることを学ぶことが多いので、授業のスタイルが全く違うと思いました。自ら考え、まとめるという能力は今後働く上で重要な力だと思うので、とても良い授業だと思いました。

また、歴史の授業では、自分が生まれたときからどのようなことが起こったのかを学んでいました。説明をしてくれた生徒が「この授業はとてもおもしろい授業なのよ」と言っていたので、私も受けてみたいと思いました。



4. 高校での学び方

受け身の授業ではなく、自分自身の考えを主張する力がつく授業スタイルがアメリカの特徴だと思いました。自分から意見を言うことが普通だという雰囲気がとても良いと思いました。私が通う学校でも、その雰囲気を作り上げられるよう、授業などで積極的に意見を言おうと思います。今後社会人になる上でも、自分の考えを相手に伝える力は重要だと思うので、グループで活動するときは、たくさん発言しようと思います。

アメリカの教育観

名古屋市立名古屋商業高等学校 鍋島 朱里

1. ホーキンス高校で感じた事

私がホーキンス高校へ行き感じたことは、教育に対する考え方が日本とは大きく違うということです。教育に対する考え方が違うということは、必然的に授業スタイルも違います。

私は、教室に入りとても驚きました。日本の学校では、全員が前を向くように同じ方向に向かって机が配置されています。しかし、ホーキンス高校では、生徒同士が向かい合うように机が配置されているのです。そうすることにより、生徒同士が気軽に意見交換をすることができます。日本では授業中に発言をする際に挙手をするのが一般的ですが、ホーキンス高校では挙手をしている生徒はほとんどいませんでした。疑問に思ったことはその場で聞き、解決します。日本では、授業中に発言することが恥ずかしいと考える生徒が多いと言われます。ところが、ホーキンス高校ではそのようなことはなく、全員が積極的に発言をしており、とても良い雰囲気でした。それは自分の意見はきちんと人に伝えるという教育がされているからだと思いました。また、この考え方は日本にはないアメリカの良い部分だと思いました。



2. ダヴィンチ高校で感じた事

チャータースクールであるダヴィンチ高校では、他の高校と比べ、より実践的で専門性の高い授業を行っていると感じました。実際に起こり得る状況を想定し、その時どうすべきかを考える授業が多くありました。先生が教えるだけでなく、生徒自身が与えられたテーマについて考えるという授業の進め方でした。グループで意見をまとめ、発表をして

いる場面もありました。日本のように黒板に書いてあることをノートに書き写し、教科書の問題を解くだけではなく、自分自身で考えることに重点をおいていると思いました。また、授業の様子を見学させていただく中で、生徒の皆さんはとても真剣に授業に取り組んでいて、学校は勉強をするための場所という強い意識を感じました。



3. まとめ

どちらの高校でも共通していたことが二つあります。一つ目は、先生から教えてもらうだけではなく自分自身で考えるということです。日本では先生から教えられることのほうが多く、話し合いをすることが少ないですが、話し合いをすることで全員が授業に参加でき、全員が自分の意見を持つことにつながります。

二つ目は、自身の興味関心や進路希望に合わせて科目を選べるということです。そのため、進学を希望している生徒は受験に必要な科目を無駄なく勉強をすることができます。また、科目を選ばなければならないことにより、早い時期から自分の進路について考えることができます。私は、この二つを日本の高校にも取り入れるべきだと思いました。

二つの高校では、生徒全員が積極的に発言していました。これは、自分の意見、考えを持っているからこそできることだと思います。そんな様子を見て私は、どんな些細なことに対しても真剣に向き合い、自分の意見、考えを持てるようになりたいと思いました。そして、これからは授業中に積極的に発言しようと思います。

貴重な体験

名古屋市立北高等学校 田中 杏奈

1. 私の研修の目標

この海外派遣のメンバーに選ばれた当初の私の目標は、英語に深く触れ、相手の文化を知ることでした。事前研修を通して、文化を知るだけでなく私たちの文化を現地の方々に伝えること、姉妹都市としての関係を知ることといったたくさんの目標ができました。

2. 事前の準備

私たちはこの海外派遣をより良いものにするために事前研修を行いました。研修では、AETの先生との英会話の練習や、現地の学校で日本や名古屋について知ってもらうためのプレゼンテーション作り、ロサンゼルスについての調べ学習など、様々なことに取り組みました。どれも初めてのことばかりだったので、とても勉強になりました。

3. ロサンゼルスでの体験

私は、初めて行くロサンゼルスに期待や不安、高揚感といった色々な思いであふれていました。現地では、私にとってすべてが新しいことばかりで、たくさんのことを学ぶことができました。例えば、あらゆる場面でのチップの扱い方、価値観の違い、また高校の授業スタイルなど文化の違いを感じることができました。

なかでも印象的だったハリウッドエリアでは、写真を撮っただけでチップを要求されたり、無料のCDを渡されたと思えば突然サインを書かれ、チップを要求するなど、日本では見ることもない光景を実際に目の当たりにしました。こういったことを聞いてはいましたが、実際に自分が遭遇しなければ分からないことがあるのだと強く思いました。また、ハリウッドエリアを端の方まで歩いていくと、道端で寝ていたり、お金を貰おうとしていたりしているホームレスの方々を見ました。ハリウッドエリアだけではなく、ロサンゼルスダウンタウン、トンネル、様々な場所にホームレスの方々がいました。その中でも黒人の方が多



く、人種差別がまだ残っているのではないかと思います。私は驚きを隠せませんでした。こうして、これらのことを実際に見ることで、文化の違いだけではなく日本とアメリカの社会の違いを感じることができました。また、日本では感じることもない人種差別について深く考えさせられました。どうすれば差別はなくなるのか、これから考えていきたいです。そしていつか差別に苦しむ人々の力になりたいと思いました。

これらのたくさんのことに気づくことができた貴重な経験は、これからの人生に大きく関わってくるものになると思います。この経験が無駄にすることなく今後の人生に繋げていきたいです。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

お金を使う場面では、一人での買い物やレストランで注文をすることができました。事前研修で練習したチップの払い方の通り、レストランやタクシーで払うことができました。文法を間違えても、ジェスチャーを加えて伝えることができる場面もあり、それからは以前よりも積極的に話しかけることができました。また、高校訪問時のプレゼンテーションでは、練習よりも上手に発表でき、しっかりと伝えることができました。

姉妹都市という面では、JETROや市庁舎を訪れることで、事前に調べていた以上のお話を聞くことができ、姉妹都市としての関わり方などを知ることができました。

<課題>

英会話において、伝えることができなかった場面が多々あり、いかに自分の英語力がないかを痛感し、これからの勉強が私にとっての一番の課題となりました。逆に、間違えることに対して気にしなくなり、より積極的になることができたので、学校でもAETの先生に話しかけてみようと思いました。

そして、現地での出来事をたくさんの人たちに還元していきます。ロサンゼルス派遣団第一号として将来名古屋とロサンゼルスを繋ぐきっかけとなるよう、現地で気づいた文化、価値観、ロサンゼルスと名古屋の関わり、姉妹都市であることを様々な形で伝えていきたいです。

積極性の大切さ

名古屋市立北高等学校 長谷川 友香

1. 私の研修目標

私は、今回の派遣が決まったとき、「お互いの良いところを知ること」を目標にしました。これは、アメリカと日本の文化の良いところを見つけ、2つの魅力を伝えたいと思ったからでした。また、文化だけでなく、4人という少ない派遣メンバーのことを知り、この研修を通じてそれぞれの良いところを見つけられればと思いこの目標を立てました。

2. 事前の準備

私たちは事前の準備として、自己紹介の練習や、名古屋や日本、学校生活を紹介するプレゼンテーションの作成、AETの先生と研修先を想定したロールプレイングなどを行いました。チップの払い方や、お店での注文の仕方などを練習しました。慣れない習慣なので戸惑うこともありましたが、楽しく練習することができました。

3. ロサンゼルスでの体験

私たちは、10日間の派遣で様々なところを訪れました。ホーキンス高校では、現地の世話役の生徒とペアを組み、授業に参加させてもらいました。実際に足を運ぶことで初めて気づくことが沢山ありました。中でも、貧富の差が大きいアメリカは、朝食を食べずに登校する生徒が多いため、校内に軽い食事が準備されているということに驚きました。

全米日系人博物館では、ガイドの方から戦前・戦時中・戦後の日系アメリカ人の暮らしについてお話を伺いました。そこで日系アメリカ人が差別を受け、強制収容所されていた話を聞きました。日系一世や二世の方々がこうした差別を乗り越えてきたからこそ、私たちは今回アメリカに派遣されることができたのだと思いました。また、学校では教えてもらえない本当の戦争の怖さや命の大



切さを学ぶことができました。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

今回の派遣を通して、アメリカに暮らす人々の積極性を知りました。訪問した高校で、生徒が誰一人寝ていなかったことや、わからないことや疑問に思ったことをすぐに質問している場面は、日本ではあまり見られない光景でとても新鮮でした。私も授業でわからなかったことや、どうすべきなのかわからなくなった時に、バディの生徒や周りの生徒に積極的に話しかけました。研修前は、人見知りな性格で人に話しかけることが少なかったのですが、まずは自分から話しかけることによって相手のことを知り、また自分のことを知ってもらうことができたので沢山友達を作ることができました。私はこの研修を通して、積極性が身についたと思います。



<課題>

私は今回の海外派遣を通じて沢山のことを学ばせて頂いたので、これからアメリカの文化を伝えることで皆さんに還元していきたいと思っています。特に、私は戦時中の日系アメリカ人の歴史やアメリカの学校生活の様子など、日本ではあまり知られていないことを伝えることで、アメリカのことをより深く知ってもらいたいと思っています。また、学校訪問でのアメリカの高校生の積極的な姿を見て、私にはまだ積極性が足りないと感じました。このように、私も彼らのように何事にも積極的に取り組める人になりたいです。

2020年に開催される東京オリンピックに向けてさらなるグローバル化が進む日本で、多くの人たちにアメリカの文化を伝え、より一層異文化理解を深めてもらいたいです。

商業高校生として成長したこと

名古屋市立名古屋商業高等学校 三輪 愛美

1. 私の研修の目標

私は高校でコミュニケーションは挨拶からだと思ってきました。自ら挨拶をしてコミュニケーションをとることを意識しようと思いました。また、商業高校生としてマナーを学ぶことを目標としました。

2. 事前の準備

日常英会話の練習をする中で、会話を続けることが重要だと学びました。会話を続けるためには、自分から質問をすることが大切だと思いました。そして、日本・名古屋・学校の魅力をしっかり伝えるためにプレゼンテーションの練習を何度もしました。相手が知らないことを英語で伝えることは難しく、何度も作り直しました。また、日本にはない習慣であるチップを支払う練習を何度も行いました。

3. ロサンゼルスでの体験

全米日系人博物館で伺った話はとても印象的でした。私たちがこの研修に参加して差別を感じないのは、昔アメリカに住んでいた日系人の方々が差別と闘ったからだと初めて知りました。そして、差別について、アメリカには“差別がある”という前提で、差別を禁止する法律がありますが、それに対して、“差別があるという意識がない”から日本には差別を禁止する法律がないことを学びました。私たちは日常の中に今も多く差別が存在していることを意識し、行動する必要があると思いました。

高校訪問では、実際に授業に参加させていただきました。現地の生徒は積極的に発言しており、生徒の活動が中心となって授業が進められていたので、とても活発だと思いました。学校内で身近な文化の違いを肌で感じることができました。また、日本・名古屋・学校の紹介プレゼンテーションを行ったところ、予想していた以上に日本のことは知られておらず、少し驚きました。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

疑問に思ったことはバディの生徒に質問をすることで、自分から話しかけることの大切さを、高校訪問で強く感じました。また、アメリカの学校の授業への取り組み方は、受け身ではなく、自分自身で考えるというものでした。自分の意志を伝える力を身に付けることが大切だと思ったので、今後授業で積極的に発言をしようと思います。

そして、車に乗った際に右側通行であることを実感しました。マナーとは国によって違うことを知り、日本のマナーが普通であるという意識を持つてはいけなと痛感しました。日本とアメリカの文化を比べながら研修に参加して、改めて日本の文化を見つめ直すことができました。そして、文化の違いはどちらが良いということではなく、理解し合うことが大切だと思いました。



<課題>

国際的な人材になるためには、まず自分の国のことをもっと知ることが大切だと強く感じました。近代史を学ぶことで国がどのような関わり方をしてきて、どのような立場に存在しているのか理解することが重要だと思いました。

この研修での経験を生かして、名古屋を訪れる外国人の方と交流できればと考えています。そして、日本・名古屋の魅力を伝えながら、日本の文化を理解してもらえよう努力します。また、今後社会人になるために、自分のこれまでの生活を見直し、周りのことを知ること、自分と他者の違いを発見し、広い視野で物事を見ることができるよう成長させたいです。



研修に参加して

名古屋市立名古屋商業高等学校 鍋島 朱里

1. 私の研修の目標

私の研修の目標は、「怖がらずに何でもやる」でした。例えば、分からないことがあった時は怖がらずに英語で聞く、初めて見た食べ物は怖がらずに食べてみるなどです。現地では折角の貴重な機会を無駄にしないよう、積極的にチャレンジできたと思います。

2. 事前の準備

事前研修では、アメリカの文化であるチップの支払い方、ホテルや学校など現地での出来事を想定した英会話の練習などをAETのDan先生と行いました。この練習では、普段私たちが学校では習わない英語表現を学ぶことができました。また一人ずつテーマを決め、アメリカ、ロサンゼルスについて調べ学習をし、それらを相互に発表することで理解を深めました。私はロサンゼルスへの海外旅行における注意点について発表しました。また、ロサンゼルスについて知るだけではなく、日本・名古屋、私たちの高校生活についても知ってほしいと思い、英語で紹介できるようプレゼンテーションを用意しました。Dan先生に現地の生徒役をしていただき、何度も繰り返し練習をしました。私たちにとっては当たり前である“湯船に浸かる習慣”や、“家の中では靴を脱ぐという習慣”などについて質問され、どのように説明すればよいのか戸惑うとともに、自分たちが暮らしている日本、名古屋について知らないことばかりだと気がつきました。改めて日本・名古屋について知るよい機会となりました。

3. ロサンゼルスでの体験

私が特に印象に残っていることは2つあります。1つ目は学校訪問です。高校2校と大学2校の計4校の学校を訪問させていただき、日本とアメリカの大きな違いを知ることができました。

ホーキンス高校やダヴィンチ高校では、現地の高校生と一緒に授業に参加させていただきました。そこで驚いたのは、日本のようにホームルーム教室はなく、生徒たちは授業が行われる教室へ毎時間移動しなくてはならないということです。また、アメリカの高校では、最終学年になると自分の進路希望に合わせて科目を選ぶことができます。そして、日本のように弁当を持ってきている生徒はおらず、校内のカフェテリアを利用していました。初めて見る光景ばかりでとても新鮮でした。

2つ目は全米日系人博物館です。第二次世界大戦中に日系人の方々がどのような差別を受けていたの

かを知ることができました。学校の授業では習わないことも教えていただき、今までアメリカや日本に対して抱いていたイメージが大きく変わりました。また、今回私がロサンゼルスを訪ねることができたのも、過去に差別と戦った日系人の方々のおかげだと強く感じました。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

ロサンゼルスへ行ったことで、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないということに改めて感じました。アメリカ、日本というだけでも文化や考え方は違います。それに加えてアメリカには様々な人種の方が暮らしています。だからこそ違う文化、考え方を見て見ぬふりをするのではなく、お互いを認め合い、受け入れることが大切だと思いました。この研修を通して、多文化共生という言葉の本当の意味が分かった気がします。

また、その国の人柄や気候、空気感などはインターネットや本だけでは分かりません。だからこそ、実際に現地へ足を運ぶことが大切だと思いました。



<課題>

今後、この経験を周囲の人々に伝えていくことが私の使命です。現地へ足を運ぶことで、今までに感じたことのない様々な違いを感じることができました。違いを感じた私だからこそ分かる、異文化を理解することの大切さを周囲の人々に伝えたいです。また、学校訪問を通して自分の意見を人に伝えることの大切さを学びました。これは自分の意見、考えがあるからこそできることです。自分の意見を持つということは意外と難しいことだと思います。さらにそれを人に伝えるのは恥ずかしいという気持ちがあります。しかし、これからはどんなに些細なことに対しても真剣に向き合い、自分の意見を持てるようになりたいです。また、授業中に積極的に発言するなどして、私から実践していこうと思います。アメリカ、ロサンゼルスについて伝えることはもちろん、改めて気づくことができた日本・名古屋の良さ、アメリカと日本の高校の違いも伝えていきたいです。今後も、ロサンゼルス市と名古屋市が姉妹都市として関係が続くよう、この海外派遣で学んだことを伝えていきます。

Everything Was New

Anna Tanaka, Kita High School

I went to Los Angeles from August 16 to 25. Before we got there, we had a training program, where we practiced English conversation, and made presentations. It was hard for me to do them, but thanks to the training program I had a great time in Los Angeles.

In Los Angeles, it was very comfortable because of the low humidity, but I felt jet lag for the first time. I was surprised at the differences between Japan and America. On the fourth day, we visited Los Angeles City Hall and could see the beautiful views from the top floor. There were souvenirs from the sister cities. There was also a gold portable shrine from Nagoya. I realized again that Nagoya and Los Angeles are sister cities. The most memorable experience for me was the Hollywood area. Walking in the Hollywood area, I received a CD from a man, and he wrote a sign and said "5 dollars". I was afraid then, but I was very surprised by the view which cannot be seen in Japan. I was also able to see the differences between the culture of Japan and America.

On the sixth day and seventh day, we visited two high schools. It was the first time for us to go to high school in Los Angeles. At Augustus F. Hawkins High School, my buddy showed me her school and I took classes with her. In all the classes, we had a role-playing class, and everyone looked like they were having fun. Besides, they did not have their own seats so they went to the classroom where the teacher is, and sat freely. I like this style. All the classes I took made me excited. In particular, the Spanish class surprised me because every student spoke Spanish in this class. On that day, I was shocked because I could not communicate well with my buddy, but I am glad that I could find out my English proficiency.

For ten days, I learned so many things. It was nice to go to Los Angeles and I will never forget this experience. My mission is to I continue telling my experience to a lot of people. I hope that Nagoya and Los Angeles become even closer.

My Experience

Yuka Hasegawa, Kita High School

I went to Los Angeles as a representative of Nagoya. In Los Angeles, I went to the Japanese American Museum, City Hall, and two schools. At the museum, I learned about the lives of Japanese Americans. I learned a lot of things that I did not know. I was surprised that Japanese American people received discrimination, and the lives of Japanese Americans were very miserable. I was very sad to hear the fact. I think that we could go to the United States simply because Japanese American people fought against discrimination.

I went to two universities and two high schools. I participated in a class in the high school. The American students were very kind. I found a lot of differences between Japanese schools and American schools. First, at American schools, desks faced each other. Students could change opinions positively by doing so. Second, students did not clean the schools because there is a person who cleans schools in Los Angeles, so students do not need to do cleaning. I was surprised. We made presentation about Japan and Nagoya. I received a lot of questions. They were surprised in particular that I change shoes in the Japanese school. I was surprised that everybody came to talk to me and happy that they were very friendly. I want to be a person like them.

I experienced a lot of things in Los Angeles. I was able to learn American high school life or the lives of the Japanese-Americans that I did not know. I want to make use of this experience from now on, and act positively. I want to tell this experience to many people and I hope more Japanese people have an interest in American culture, American schools and so on. I learned many things from this experience. Thank you so much.

Becoming a Member of Society

Manami Miwa, Nagoya Commercial High School

Through the experience, I learned about business, and I found a cultural gap between Japan and America. I learned important things for business at JETRO, Los Angeles. They are supporting Japanese companies which carry out business in America. To introduce a Japanese thing to America, transforming the Japanese-style into American style is necessary. For example, the Japanese anime “Doraemon” is broadcast after transformation for Americans. In Japan, “Doraemon” often eats “Dora-yaki” and “Dora-yaki” has been transformed into pizza in America, because “Dora-yaki” is not very familiar to Americans. I was surprised to hear that. I learned that matching the American style is very important. And the food that anime characters are eating is advertised. Now, “ramen” is in fashion in America. It is said a Japanese anime called “Naruto” made it popular. After I heard this story, my impression of anime has been changed. I thought that anime was just for fun. But anime has become the key to success in business. I think that Japanese companies have to learn that understanding the people’s lifestyle is necessary for success. And they have to use the trend of the times. If we start business in America, we have to know the differences in lifestyles. I learned looking back on my lifestyle as a Japanese is important.

At Augustus Hawkins High School, I took a class with the students. I learned the different ways to study at school. The students there don’t have their own classroom like in a Japanese school. So, every class starts with taking attendance. In Japanese schools, students copy from the blackboard, and make notes. But American students don’t do such a thing. Teachers give some advice, and the students exchange their opinions so, the classroom is full of students’ voices. They hardly ever use textbooks. I was surprised to see it. In a science class, we used cards and we paired up a card with a term and a card with a meaning in pairs. After the teacher gave the answers, we took out our notebook. In an interaction class, they read two sets of data, and exchanged opinions. This class was similar to the accounting class which I have taken. In this class, we also learned about ourselves. We thought about our futures and thought about what we believe. I think that this class is very important, because knowing myself is necessary to understanding others.

I found that there were many classes to exchange opinions so each student has their own ideas. I learned exchanging opinions is very important so I will express my opinions in class actively. I think expressing my opinions is necessary to become a member of society.

The Most Impressive Thing

Akari Nabeshima, Nagoya Commercial High School

I was impressed by the American high schools the most. When I went to high schools in America, I felt a great difference in education. Especially in class styles. I visited two high schools in Los Angeles. When I entered the classroom, I was very surprised. Because in Japan all the desks face to the front. But in America, everyone faces each other. Students can exchange opinions easily that way. In Japan, students are negative about speaking. But in America, there was an atmosphere that had all the students speak positively. The importance of each person’s opinions influences the education. This is a good point of America. And I think Japan doesn’t have this mentality. In the states, students don’t copy the blackboard like in Japan. Teachers gave themes to students and students discussed them by themselves.

I also felt there were various students in high school in America. For example, hair colors are different, some students have make up and have pierced earrings and care nails. There seemed to be no rules for what they wear. They don’t have school uniforms either, some students listen to music or eat in class. We can’t imagine it in Japan. To choose subjects and to think by themselves are common points in both high schools. In Japan, teachers just teach and students don’t discuss. But in America, everyone participates in class and exchanges their opinions. If we can choose subjects, it is better for students who prepare for university. Because they study only necessary subjects, they can think about their future from an early time. American high schools are similar to Japanese universities. I think high schools in Japan should adopt these two points.

Visiting two high schools in America was a good stimulation for me. I could recognize the good points of American high schools. And I could compare American high schools and Japanese high schools. I learned the importance of expressing our opinions. From now on I am going to express my opinions positively in class.

あとがき

名古屋市立高校生海外派遣
ロサンゼルス派遣団
総務 松原 好秀
(名古屋市立名古屋商業高等学校)

本年度より、名古屋市立高等学校の海外派遣事業が大きく変わり、北高等学校と名古屋商業高等学校の生徒が、アメリカのロサンゼルスにおいて10日間の海外研修を行うこととなりました。これまで続けられてきたマレーシアとオーストラリアへの派遣に加えて、新たにドイツとアメリカへの派遣を実施することとなり、本海外派遣事業は新たな一步を踏み出しました。これもひとえに名古屋市教育委員会、関係機関の皆様を始めとする多くの方々のご支援・ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

本ロサンゼルス派遣は、団員たちの「親善大使として姉妹都市友好の懸け橋となり、この海外派遣を未来につなげる新しい一步にしたい」という思いを込め、“新たな一步を **-Charge without giving up!!!-**”をテーマに掲げました。名古屋市とロサンゼルス市は、両市にとって最初の姉妹都市であり、1959年から現在に至るまで様々な交流が行われています。このテーマの下、団員一人ひとりが積極的に研修に取り組み、異文化理解を深め、日米の文化の違いなど多くのことを学ぶことができました。本報告書には、4名の団員の体験や現地研修で感じ取ったこと、学んだことが率直に述べられております。この研修を成し遂げた団員たちの想いや成果を読み取っていただければ幸いです。

私たち派遣団は、この海外研修をより有意義なものにするため、10回にわたる事前研修を実施しました。訪問国アメリカ、特にロサンゼルスの歴史、宗教、産業、生活習慣についての調査研究を行い、お互いに発表し質疑応答をすることによって、知識を共有し理解を深めました。語学研修では、ロサンゼルス出身の **Dan Le** 様を講師としてお招きし、英会話やロサンゼルスの現地事情などをご指導いただきました。

現地研修では、大学2校と高校2校を訪問しました。その中でも、団員たちが現地の生徒とペアを組んで一緒に授業に参加した、**Augustus F. Hawkins** 高校との交流が印象的でした。授業では、生徒たちの発言が多く、皆でコミュニケーションをとりながら授業が進められており、団員たちは日本の授業スタイルとは大きく違うことに驚いていました。生活を共にすることで、アメリカの高校生活を肌で感じることはできたのではないのでしょうか。授業後には、日本や名古屋、高校生活を紹介するプレゼンテーションを行いました。現地の生徒から多くの質問が出され、団員たちは靴を脱ぐ文化や名古屋の食文化について答えるなど、しっかりと伝えることができました。

そして、ロサンゼルス市庁舎を訪問し、名古屋とロサンゼルスの友好親善に努めました。名古屋市が1963年に寄贈した黄金の神輿が現在も保存・展示されており、姉妹都市としての交流の歴史を感じました。また、海外でビジネスを行う日本企業をサポートしている **J E T R O**（日本貿易振興機構）ロサンゼルス事務所を訪問しました。J E T R Oの活動や、海外でビジネスを行う上でどのようなことに気をつけなければならないかを教えていただきました。ビジネスという側面から日米の違いや国際経済について学ぶことができました。全米日系人博物館では、アメリカにおける日系人の歴史について学ぶことができました。第二次大戦時の日系人強制収容や、その後の日系人に対する差別との闘いについて、生徒たちはメモをとりながら真剣にガイドの話を聞いていました。また、大きなコンテナターミナルを有しているロングビーチ港では、名古屋と同じ港湾都市であることを実感することができました。その他、カリフォルニアサイエンスセンター、ゲティセンターでの芸術鑑賞、乗馬などの自然体験、ダウンタウンやハリウッドエリアの視察、そしてリトルトーキョーやリトルエチオピアといったリトルシティの視察など、様々な研修を行うなかで、多文化共生社会の一端を垣間見ることができました。

今回の海外研修を通して、団員たちは、世界的な経済・文化都市であるロサンゼルスの産業、文化や歴史を学ぶだけでなく、グローバル社会に生きる国際人としての意識を持ち、視野を広げることができたと確信しています。この経験を活かして、次なる「新たな一步」を踏み出すことを期待しています。そして、新たな一步が刻まれたこの海外派遣が、今後も継続されいっそう発展することを切に願っております。

最後に、講師の先生、保護者の皆様、旅行会社様、名古屋市教育委員会、学校関係の皆様にご多大なご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

Nagoya City Students Study Tour
Los Angeles 2016

新たな一步を
～Charge without giving up!!!～

名古屋市立高等学校 高校生海外派遣 ロサンゼルス派遣団

ホームページ <http://www.nagoya-ch.ed.jp/kaigai/>

この冊子の本文は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。